

「学びのプロ」はいつか卒業しなければならない

「はやぶさ」プロジェクトマネージャー
川口淳一郎

高校生たちに「はやぶさ」の話をする機会があります。優秀な生徒はみな一生懸命メモを取ろうとする。けれども大切なのはメモをすることではなく、私の話から科学技術への好奇心を抱き、想像を逞しくすること。そのインスピレーションです。教科書や講義内容を丸暗記するような「学びのプロ」に終わってしまってはダメです。

日本という国自体、西洋の技術や文化を輸入してはそれを徹底的に消化するプロでした。高度成長期まではそれが功を奏した。しかし学びのプロは学習対象がなくなるとうとうついていけなくなる。これからの日本に求められるのは、自分の頭で考え、オリジナリティーを生み出すこと。「はやぶさ」プロジェクトはその一つの例だったと思います。

待っていてはダメ。自分の頭で考え、自分で取り組まなければ。若い人もいつかそのことに気づくでしょう。その気づきをいかに早めるか、そこに教育の役割があると思います。

Kawaguchi Junichiro

川口淳一郎
宇宙航空研究開発機構(JAXA)教授

かわぐちじゅんいちろう ●1955年青森県生まれ。京都大学工学部卒業。1983年、東京大学大学院工学系研究科博士課程修了後、旧文部省宇宙科学研究所に入り、2000年に教授就任。現在、独立行政法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所宇宙航行システム研究系教授、月・惑星探査プログラムグループ プログラムディレクタ、「はやぶさ」プロジェクトマネージャー。工学博士。